

R4「宮城県障害者施策推進基礎調査」の結果について

1 調査の概要

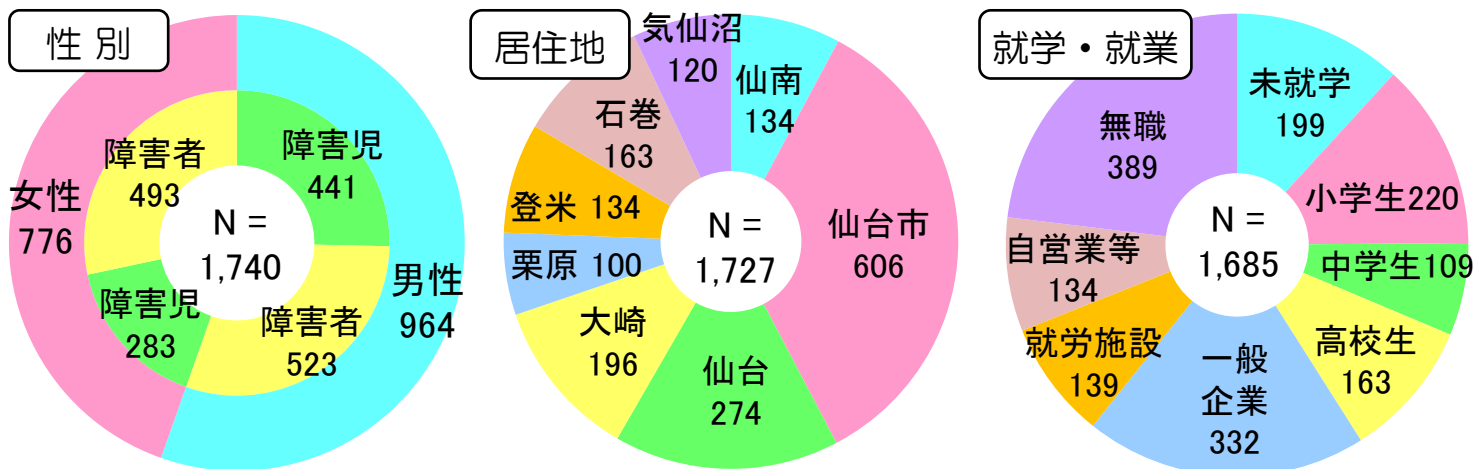
目的	みやぎ障害者プランに盛り込むべき支援ニーズ・施策の把握										
方法	インターネット・郵送によるアンケート			期間	令和5年3月3日～3月17日						
発送・回収	障害者手帳所持者6,600人(属性分けの上、無作為抽出)から1,752人回収 ※ 母集団の少ない障害児や知的・精神障害の意向把握のため、標本抽出を調整										
	身体障害		知的障害		精神障害		その他	合計			
	発送	回収	発送	回収	発送	回収	回収	発送	回収	%	
障害児	979	380	754	284	228	50	17	1,961	731	37.3	
障害者	2,359	616	568	163	1,712	218	24	4,639	1,021	21.9	
合計	3,338	996	1,322	447	1,940	268	41	6,600	1,752	26.5	

※ その他は障害種別の項目が非回答の方

分析上の留意点	全体の傾向等を分析する際は、母集団の構成比(身体57%・知的19%・精神24%)に応じてウェイトづけ集計を行い、統計的な信頼性を確保									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

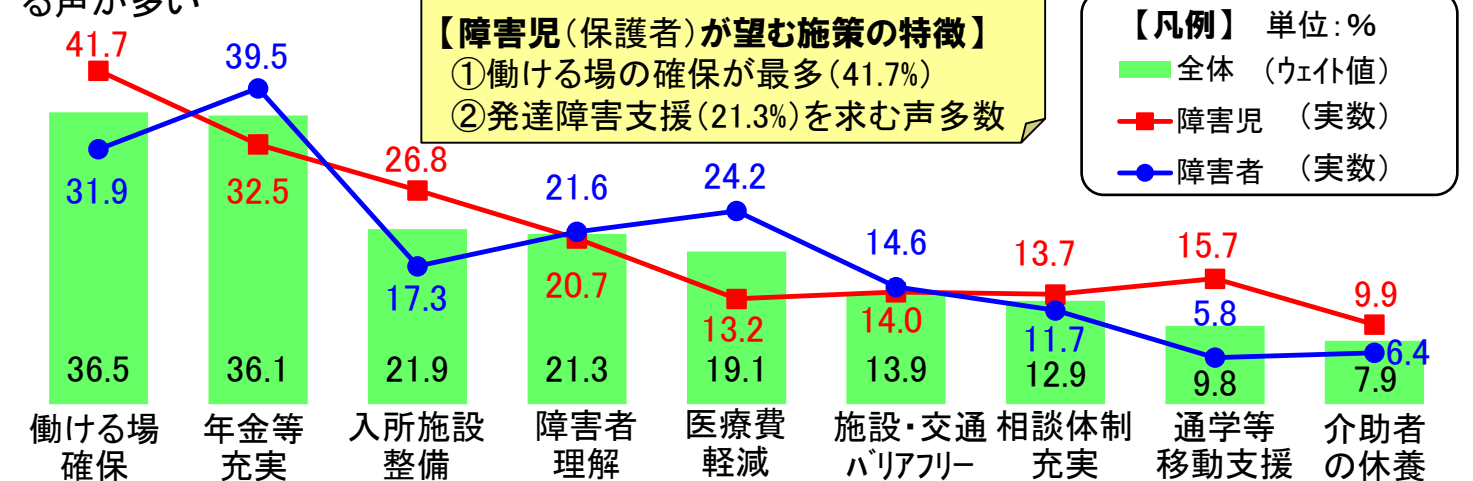
2 結果の概要

(1) 回答者の属性 (実数)



(2) 最優先で取り組んでほしい施策 (複数回答・上位の施策を抜粋)

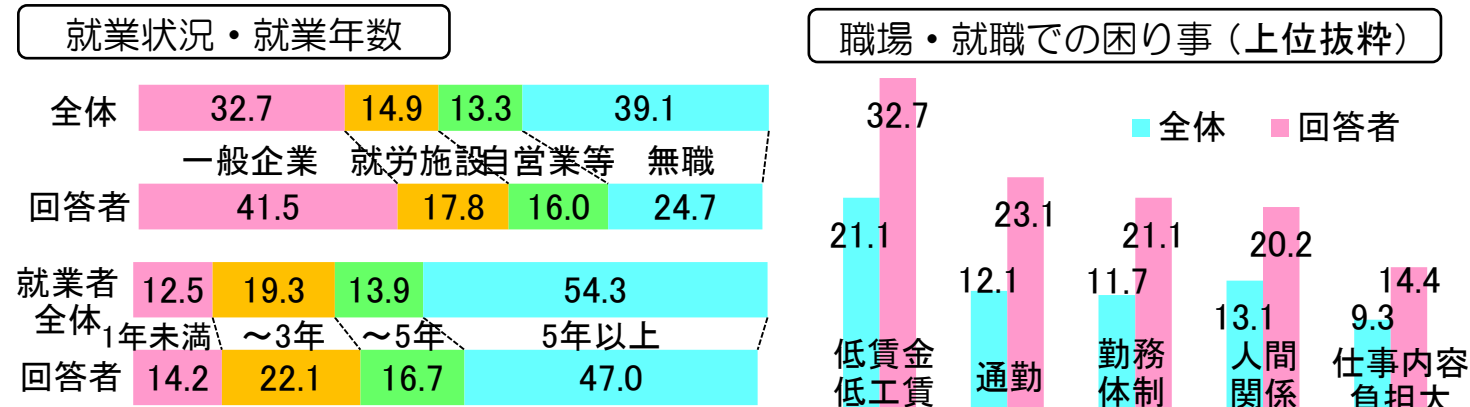
▽ 働ける場の確保や障害のある人に対する理解の促進、グループホーム・入所施設の整備などの社会参加のための環境整備に加え、年金・手当や医療費負担などの所得保障の充実を求める声が多い



3 詳細 (県の重点施策として推進すべき課題等)

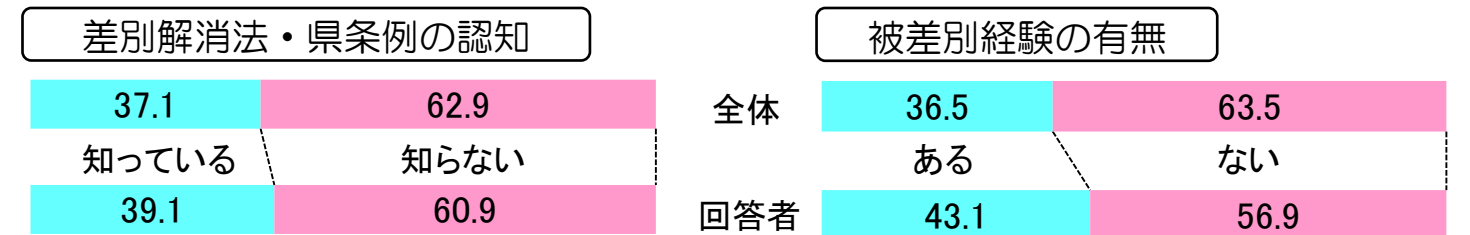
(1) 「働ける場の確保」を挙げた人の分析

▽ 企業・就労施設での就業経験は高いが、下記の理由等から就業年数は短い傾向



(2) 「障害者への理解」を挙げた人の分析

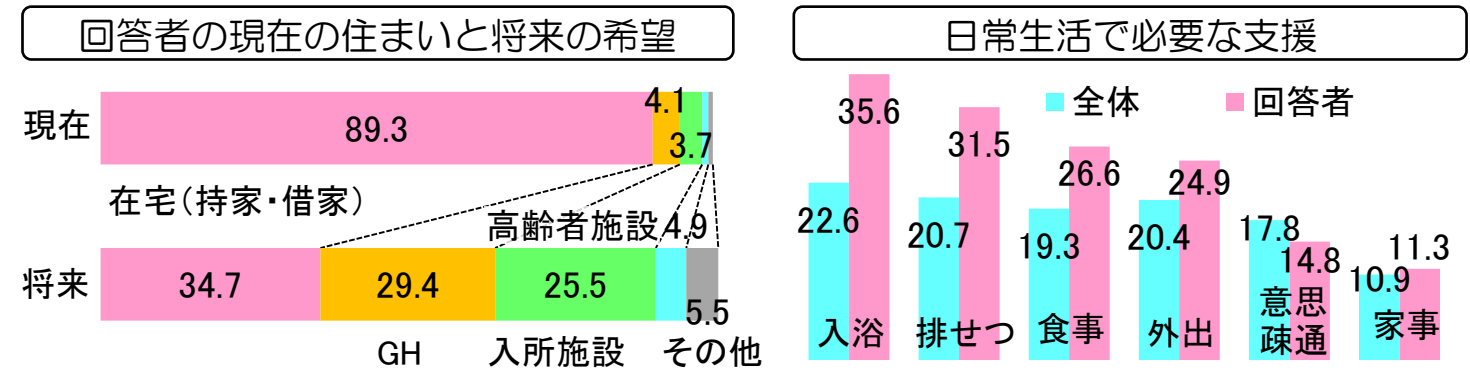
▽ 法制度の認知度に大差はないが、差別を受けた経験ありとの回答が多い



(3) 「住まいの問題」を挙げた人※の分析

▽ 現在は在宅だが、下記の理由等から将来はGHや施設での生活を希望する傾向が高い

※ 「入所施設の整備(13.4%)」、「GHの整備(8.4%)」、「住宅の確保(7.7%)」のいずれかを挙げた人(計29.5%)



4 現行プランの評価 (H28調査との経年比較)

▽ 働く場の確保やGH等整備の順位が上昇

▽ 他方、順位を下げたものの、まだまだ所得保障(年金等・医療費)の充実を求める声は多い

▽ 障害者理解の数値が横ばいであり、障害者差別解消に向けた普及啓発のさらなる取り組みを推進する必要がある

